

「ハガルとイシュマエルの追放」

2021年02月01日

「サラがあなたに言うことは何でも聞いてやりなさい。イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれるからである。しかし私は、あの女奴隷の子もまた一つの国民とする。彼もあなたの子孫だからである。」(創世記 21 章 12 節 d～13 節)

神の約束通りアブラハムとサラにイサクが生まれた。アブラハムはイサクが大きくなり、乳離れの日盛大な祝いの席を設けた。サラはこの席で、女奴隷ハガルが生んだイシュマエルが遊び戯れているのを見た。このことを、パウロはガラテヤ書 4 章 29 節で、「肉によって生まれた者(イシュマエル)が霊によって生まれた者(イサク)を迫害した」と書いている。迫害したのではなく、共に遊び、ふざけていたのではないか。サラはアブラハムに、「この女奴隷とその子を追い出してください。この女奴隷の子が、私の子、イサクと並んで跡を継ぐことはなりません」と言った。サラはイサクだけが相続人の権利を持ち、また、ハガルを疎んじ、長子であっても異母兄弟のイシュマエルを排除したいと思ったのである。アブラハムはイシュマエルも自分の子どもなので、この言葉は辛いものであった。しかし、神はアブラハムに「サラの言うことは何でも聞いてやりなさい」と言い、イサクから出る者があなたの子孫となるが、女奴隷の子もまた、あなたの子孫であるから、一つの国民にすると約束された。アブラハムは朝早く起きて、パンと水の革袋を取って、ハガルに与え、肩に負わせ、子どもと共に送り出した。彼は辛く、済まないという気持ちであったろう。自らがパンと水の革袋を用意している。神から、サラの申し出を聞き入れよ、と、また、イシュマエルへの祝福の約束も聞いていた。米国の白人農園主が奴隷に産ませた子を、奴隷として売ることがあったという。母親と父親の子への愛に違いがあるようだ。

ハガルとイシュマエルは出て行き、ベエル・シェバの荒れ野をさまよった。革袋の水がなくなると、彼女は子どもを灌木の下に置き、子どもが死ぬのを見るのは忍びないと、矢の届くほど離れた所に行き、子どもの方を向いて座り、声を上げて泣いた。エジプトから奴隷として、アブラハム家に仕えてきたが、母子は理不尽な扱いを受け死のうとしている。この上なく残酷である。一方、神は子どもの泣き声を聞かれ、神の使いがハガルに呼びかけ、「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子どもの泣き声を聞かれた。さあ、子どもを抱き上げ、あなたの手でしっかり抱きしめてやりなさい。私は彼を大いなる国民にする」と言われた。神はハガルの目を開かれたので、彼女は井戸を見つけ、革袋に水を満たし、子どもに飲ませた。荒れ野で、渇きのために死を覚悟した二人は命を繋ぐことができた。絶望した時は、下を向き、周りが見えなくなる。ハガルは神によって目を開かれ、神の恵みを見出したのである。神はイシュマエルと共におられ、彼は大きく成長し、パランの荒れ野に住み、弓を射る者となった。母は彼のために、祖国エジプトから妻を迎えたという。イスラエル旅行に行った時、オプションで荒れ野を歩く体験をした。石がゴロゴロした地で、灌木しかなかった。歩きながら、母子二人の悲劇を思った。

アブラハムはサラの申し出を受け、女奴隷ハガルによってイシュマエルを得たが、ハガルとイシュマエルが置かれた状況は絶望的な苦しみであった。サラの年を取ってから生まれたイサクへの溺愛は理解できるが、アブラハムの対応に誠実さは見られない。しかし、聖書は、神のアブラハムへの祝福のゆえに、イシュマエルへの祝福が継続されたと伝えている。私たちにも、絶望の時、恵みの井戸が備えられていることを、心に覚えたい。